（　お　知　ら　せ　）

令和４年１２月９日
防　　　衛　　　省

次期装輪装甲車（人員輸送型）の車種決定について

陸上自衛隊９６式装輪装甲車の後継車両である次期装輪装甲車（人員輸送型）として、以下のとおり車種を決定したので、お知らせします。

１　提案者及び車種
　　提案者：ＮＴＫインターナショナル株式会社
　　車　種：Ｐａｔｒｉａ社製ＡＭＶ

２　選定理由
・　第１段階評価においては、必須要求事項を満たすか否かを評価し、いずれの提案車種もこれを満たした。
・　第２段階評価においては、「基本性能」、「後方支援・生産基盤」及び「経費」について１００点を満点とする加点を行い、最終的な評価点が最も高かったＰａｔｒｉａ社製ＡＭＶを次期装輪装甲車（人員輸送型）として決定した。

なお、その他詳細については別添資料を参照されたい。

（参考）
○　車種選定作業の経緯
　　令和４年８月２９日　提案希望者に対して提案要求書手交
　　　　　　９月２７日　提案者から提案書を受領。以後、提案内容を精査

○　車種等

区　分	提案車種	製造会社
国外既存車種	ＡＭＶ （既存車両）	Ｐａｔｒｉａ （フィンランド）
国内試作車種	機動装甲車 （試作車両）	三菱重工業（株） （日本）

令和４年１２月９日
防　　　衛　　　省

陸上自衛隊の次期装輪装甲車（人員輸送型）の車種選定結果について

１．次期装輪装甲車（人員輸送型）の導入

次期装輪装甲車（人員輸送型）は、戦闘部隊や戦闘支援部隊等に装備し、敵の脅威下における戦場機動、人員輸送等に使用するとともに、国際平和協力活動における車列警護等に使用することとしている。

次期装輪装甲車（人員輸送型）は、現有の９６式装輪装甲車の後継として、平成３０年７月の装輪装甲車（改）の開発中止を踏まえ、国内外の複数車種を選定し、各車両が自衛隊の運用等に供することを試験等により確認した上で、最適な車種の選定を行った。

２．車種選定に係る経緯

車種選定にあたっては、令和元年５月、企業に対して試験用車種に関する提案を募集し、令和元年９月に試験用車種３車種を選定した。そのうち１車種の車両（ＬＡＶ６．０）が納期（令和４年３月３０日）までに納入されなかったため、残り２車種（ＮＴＫインターナショナル（株）及び三菱重工業（株）からの提案による試作車）について、令和４年１月から試験を行った。また、同年９月、同２社から提案書を受領し、予め定めた選定手続に則って、提案車種の分析・評価作業を行った。

提案車種は以下のとおり。（５０音順。別添資料参照）

区　分	提案車種	製造会社
国外既存車種	ＡＭＶ （既存車両）	Ｐａｔｒｉａ （フィンランド）
国内試作車種	機動装甲車 （試作車両）	三菱重工業（株） （日本）

装備取得委員会（議長：副大臣）における審議を経て、「ＡＭＶ」を次期装輪装甲車（人員輸送型）として決定した。

３．次期装輪装甲車（人員輸送型）に求められる性能等

（１）機能・性能

装輪装甲車は、島嶼防衛等の各種事態において、陸自部隊が迅速に展開した際、敵の火力脅威が存在する中で、部隊の安全を確保しつつ人員輸送等を確実に行うためには、装輪装甲車の防護力（装甲）、火力（搭載火器）及び機動力（装輪）が有効である。今回の選定においても、必要な防護性能や、火力性能、機動性能等の必須の性能を有することを求めているほか、特に隊員を防護するといった装備の特性上、防護力は重要なため、更なる防護力を有する場合にはそれを評価することとしている。

（２）後方支援及び経費

整備性に優れ、かつ、整備、補給、技術支援の各種後方支援活動を合理的なコストで実施可能であることなどを必要としている。

加えて、国内において生産可能であること、量産維持段階における経費が安価であること、付属品の価格等についてもより優れた提案となっている場合はそれを評価することとしている。

４．評価方法

（１）第１段階評価

機能・性能及び後方支援に関し、必須要求事項を全て満たすか否かを評価し、一つの項目でも満たさない場合は選外とすることとした。

（２）第２段階評価

第１段階評価を通過した提案について、それぞれの提案事項について１００点を満点とする加点法により評価（基本性能、後方支援・生産基盤、経費）を行い、その合計点の最上位の車種を採用することとした。

５．評価結果

（１）第１段階評価

２車種とも、全ての必須要求事項を満たした。

（２）第２段階評価

提案事項中の、基本性能については、「ＡＭＶ」が最も優れていた。

後方支援･生産基盤については､全体として概ね同等の結果となった。

経費については、「ＡＭＶ」が高い評価を得た。

合計点については、「ＡＭＶ」が高い点数を獲得した。

（３）結　論

第２段階評価において最高点を獲得した「ＡＭＶ」を次期装輪装甲車（人員輸送型）として選定した。

６．その他

「ＡＭＶ」は、現状、海外企業で製造されていることから、国内防衛生産・技術基盤への裨益に鑑み、その取得にあたっては、日本企業受注によるライセンス国産を追求することとしている。

（　以　上　）

次期装輪装甲車の取得に関する事業概要

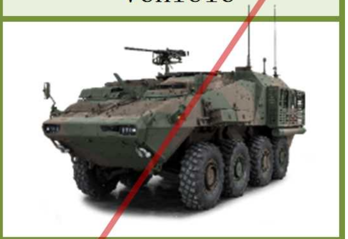
全般事項

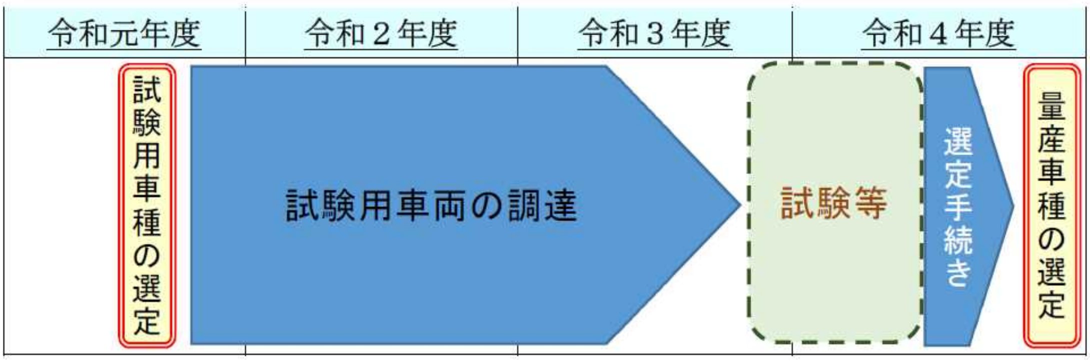
○　装輪装甲車（改）の開発中止の決定（平成３０年７月）を受け、平成３１年度から事業を開始、令和元年９月に試験用車種３車種を選定。

○　令和４年以降、実車両に対する試験評価を実施。企業提案・試験評価に基づき性能･ＬＣＣ等を総合的に評価し令和４年度を目途に量産車種を選定する計画。

○　「次期装輪装甲車の取得に関する検討委員会」（委員長：防衛装備庁長官）を設置し、省横断的な調整・検討を実施。

試験用車種の選定結果

区　　分	試作車両（国産）	既存車両（輸入）	
提案車種	機動装甲車 Mobile Armored Vehicle	ＡＭＶ Armored Modular Vehicle	ＬＡＶ６．０（※） Light Armored Vehicle
外　　観			
提案企業	三菱重工業	NTK ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ	双日ｴｱﾛｽﾍﾟｰｽ
製造企業（国名）	三菱重工業 （日本）	パトリア社 （フィンランド）	ＧＤＬＳ社 （カナダ）

※　試験用車種として採用されたが、納期（令和３年３月３０日）までに契約条件を満たす車両が納入されなかったため契約を解除し、試験用車種から除外された。

選定スケジュール